

(別紙4) 平成 26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270100353
法人名	有限会社介護サービスキャッスル
事業所名	グループホーム賀茂
所在地	静岡県賀茂郡西伊豆町宇久須534-1
自己評価作成日	平成27年1月15日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2270100353-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2270100353-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	平成27年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者家族・知人が来やすい施設。医療機関が不足している為、近隣の診療所と連携し、重度の利用者の方にも極力対応できる環境である。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は楽しく介護に当たり、入居者に喜ばれることを励みに感じ喜びとなり、環境を整えてあげたいと思っている。近くの診療所と提携したことにより、入居者や家族の希望である終末期の支援が出来るようになった。入居者の親族や友人の訪問が多く、馴染みの関係を継続できるよう支援している。契約時に、家族の入居に不安のある場合には実例を説明し理解していただき、2人3脚の支援をしているので何度も来所して頂くよう、いつでも受け入れる心構えのあることを伝え安心を与えている。入居者は高齢となり介護度が増す中で、全職員喜ばれる支援を話し合いを重ね研鑽に努めている。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人として生きる、という理念の元、利用者に対して1人の人として対応している。	理念は玄関・事務所等目に付く所に掲示されている。職員が理念について話し合う機会を多く持ち、意見も出されている。2人介助の時には職員同士が同じ理念のもと、ケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	年々、地区のボランティアの方が増えており、交流機会が増えている。	自治会より回覧板が回ってきて地域の情報を得たり、事業所の情報を送る事ができる。地域への情報発信としてホームページを立ち上げたいと思っている。近隣からの訪問者は多く、差し入れもある。地域で結成されたボランティアの会の訪問が月3回程ある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学される方も増え、その時にグループホームの特色などを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議がなかなか出来ない状況であるが意見は活発に出てきた。	運営推進会議の開催が出来ないなか、役所・民生委員と管理者の出席で開催した時は役所の方からの意見で、グループホームの特色を聞かれたり、ショートステイをやって欲しいとの要望が得る等意見は良く出して頂ける。	家族は遠方在住で、参加する事はなかなか難しいが、入居者の親族や友人の訪問は多いので、その方達やボランティアの方達に依頼し地域代表として参加していただくことを希望する。また入居者の参加可能な方の出席にも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡は密にとっている。ホームの事情も極力報告し、協力して頂いている。	村時代からの繋がりが継続し、困難事例の相談に行ったり、書類関係の提出等で月数回出向している。生活保護者は県の管轄で手紙を月1~2回出している。高齢化は県で1・2位であり、行政よりショートステイの依頼があるが未申請である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要な時以外は基本的に拘束は行っていない。	拘束の宣言を掲示している。一人で外出する入居者への対応について、「刺激するような声かけや急いで追わないように」など朝礼時に指導し、職員はスピーチロックに気をつけている。現在、何度も出てしまい、警察のお世話になったこともあり、玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について朝会などで具体的な事件など取り上げ、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ここ最近、市町村より問い合わせが増えてきており、その際、職員全員に報告、活用の機会を模索している。		
9		○契約に関する説明と納得	契約時には時間をとり、ゆっくりと説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会等で行っている。	意見箱を以前は置いていたが入居者がもてあそんだりの混乱が生じたため現在は撤去している。運営推進会議において家族から意見を聞く機会としているが、遠方に在住のため意見を聞き出せていない。出た意見には可能な限り、改善している。	家族は遠方在住のため運営推進会議への参加は難しいため、スナップ写真や日頃の様子を報告する等の際、アンケートを取る等家族からも意見を出しやすくなる工夫に期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して、可能な限り提案を聞くように心がけている。	職員から職員増員の要望が出て広告を出している。仕事の効率化について職員から意見があったが、具体的改善までには至らなかった。シフトの変更は介護リーダーが皆に説明して許可を得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	まだまだ不十分な面もあるが情報も集めて考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には出来るだけ行くように勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会にはなかなか行けないが、訪問調査、その他でホームに同業者が来所する時は極力話をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずはいろんな話をし、安心して頂いてから抱えている問題などを聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所にはまだ早い時などは、家族状況も考慮しつつ話をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1日の大半の時間を職員は利用者の方と過ごしており、関係自体は特に心配になるような状況はない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が頻繁に来所して下さる施設であるので築けているのではと思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方達が主であり、支援は十分ではないができています。	入居者は近隣の方が多く、馴染みの人が多く訪問してくれるよう近隣との関係が途切れないよう支援している。馴染みの理美容師さんが来所の折、友達を連れて来てくれることもある。認知症状が進み行動障害も出て、馴染みの人や場所等の関係は維持が難しくなっている入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格、趣味を見極め、配慮出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙や行事のやり取りで関係は継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いままでの暮らしの延長上を理想とし、本人の意向を聞いている。	日々の会話の中から意向を聞きだし、可能な限りかなえる様にしている。テレビでの情報を聞き、桜見物等の要望が出ると車で外に出かけている。難聴の方には手話等を使い把握に努めている。本人の訴えを記録し、職員間で情報共有している。以前利用していたデイサービス事業所からも情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同上		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の近所の方にも状況を聞くようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報を出来る限り集め、作成している。	入所時のアセスメント、本人、家族の要望、介護職員からの情報を基に、その人に必要としたプランをケアマネジャーが作成している。また、入居後に知りえた情報を参考に現状に即した介護計画を作成している。介護計画を本人に説明し、遠方にいる家族には送付し同意をいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに気づいたことはなるべく書くよう、配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	とにかく本人、家族の意見を聞くように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔ながらの人、店、屋号などを会話の中に取り入れながら対応をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は2つの診療所と契約を行っており、関係は良好である。	協力医の月1回の往診があり、体調変化時には電話にて対応してもらっている。緊急時や精神科受診の際には事業所が対応し、結果を家族に報告している。歯医者は近くの歯科を利用し適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の相談員と連絡を密にとり、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針について、入居時に話をしている。万が一の場合に備え、協力関係は出来ている。	契約時積極的に治療するか否か伺い、看取りの事例を出し説明している。九分九厘が施設での看取りを希望している。食事が摂れなくなった時点で家族に連絡し、医師の指導のもと、朝会でバイタル・体温・触診脈・食欲等全てを説明する。職員は最後まで見てあげたいと一丸となって支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	往診時、かかりつけ医のドクターに話を聞くよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	取れている。	年2回夜間・昼間想定訓練を消防署の指導のもと実施している。夜間2階からおんぶと抱っこで避難誘導、10分かかっている。地震や山崩れ時には2階で待機と指示されている。また地域の避難場所にもなっている。備蓄は食材は1週間分、水も用意しているが近くに井戸もある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格を見極め、実践を行っている。	刺激的又は下品な言葉は使わないよう徹底している。その人の誇り、自尊心を大切にす話題を朝会の折に話しあい、入居者個別に嫌な言葉は使わない等注意している。支援中気付くことがあるとやめている。居室に入る時はノックし、声掛けをしている。入居者を「さん」で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすいよう、話し方や質問を変えてみたり、配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あまり希望を出される方はいないが、ゆっくりできる環境作りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 行っている。	一緒に行っている。	食材は本社から届き、担当職員が1階2階とも一緒に作っている。入居者の好き嫌いは把握し、テレビを見て食べたいと希望すると記録に残し提供している。さしみが食べたい等希望が出ると可能な限り出すようにしている。皮むきや食器洗い、食器拭きの出来る人が率先して行っていた。食後は昔話を楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	箸が止まってしまう方もいるが、極力見守りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレを極力使うよう、声掛けを行っている。	排泄表を参考に2～3時間に1回位誘導している。トイレに座って頂くことを重視し、立位が出来る人はトイレ誘導している。失敗したときには、さりげなく居室に誘導している。サインを見逃さない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に気をつけてなるべく野菜等、取って頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入れる時はそのように行っている。	週2回、午後は昼寝をする人が多いため、体調を見極め午前中の中の入浴としている。拒否者には言葉かけで誘導し、例えば薬をつけようかと気をそらし誘導している。介助をする職員を指名して入浴を楽しむ入居者もいる。一人の介助では難しい入居者の場合には、2人で介助する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室があるので自由に使用して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で常に確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換を行っているつもりではあるものの、まだまだ細かい配慮が必要である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか行く事が出来ないが配慮している。	入居者は重度化しているが、なるべく出かける様にしている。事業所の周りは緑が多く、近くを散歩に出かけ気分転換を図っている。車いすの人が2~3割いるので時々しか行けない。春になると日向ぼっこを楽しんでいる。今は外食希望者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	歩ける方も居室よりフロアにでてきて下さるので、一緒にすごしながら色合いを考えている。	室温・換気が保たれ、加湿器を設置している。廊下には箒や塵とりが掛けられ、生活感があつた。皆で写した笑顔の写真が飾ってある。ひな段のついた壁紙が季節を感じさせている。昼食後居室に戻る人、食事の後片付けをしたり、会話を楽しんでいる人がいたり居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家にある物は危険物でない限り、自由に持ってきていただく事は可能である。	仏壇やタンス等を持ち込み、家族の写真や見やすい所に時計やカレンダーが掛けてあり、居心地よく過ごせるようになっている。配置は安心・安全を考慮し、歩行や転倒防止のため動きやすくしている。ベッドやシーツ、テレビ・エアコンは施設で備えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態を見極め、配慮している。		